

企業名：中越パルプ工業株式会社

レポート名：統合報告書 2021 について

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。経営目標として 2025 年度までに「連結営業利益 40 億円」「ROE（自己資本利益率）5%以上」、2030 年度までに製造工程における化石燃料由来の CO2 排出量を 50% 削減（2013 年度比）といった目標の記載、その他には具体的な環境問題への取り組みや収益性強化を図る中期経営計画、紙・パルプ製造事業と発電事業、それぞれの事業の強みや弱みを踏まえた 2021 年度以降の政策を明記してあること、様々な項目における重要課題とその解決に向けた具体的目標などから中越パルプ工業株式会社（以下、中越パルプ工業）の目指す姿は容易に理解できる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できる。この統合報告書では、営業利益等の企業の財政以上に、環境・社会面での貢献を重点的に取り上げている。企業に循環型社会への貢献が強く求められている昨今の社会情勢において、中越パルプ工業の競合他社以上の社会的貢献が強く認識できることは投資家へのアピールや、企業価値の上昇など、社会的優位性がかなり高いと言えるだろう。その点において、競合優位性が高いと理解できるような統合報告書であると言える。他方、営業利益や収益性などの財政面においての競合優位性はあまり感じられない。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。この統合報告書では 2030 年度までの製造工程における化石燃料由来の CO2 排出量を 50%まで削減するという目標に向けた具体的行動が記載されている。環境対策は通常、持続的に行っていくものであり、そのための具体的行動が現在明確となっていることは競合他社に先駆けた政策が持続的に行われることと同値であることを意味していると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

可能であると思う。中越パルプ工業自体が環境や社会に目を向けた政策を重点的に行っている会社であるところの統合報告書から理解できるため、従業員も自動的に環境や社会について考えられる機会を十分に保持していると考ええる。また、育児休暇所得などの「ワーク・ライフ・バランス」を十分に意識できる環境や「健康経営優良法人 2021（大規模法人部門）」に認定されている実績から従業員に対する手当もかなり厚いことがわかる。このことから、従業員は企業から安定した生活・健康面からのサポートを受けながら、自信が行う仕事の社

会的役割をしっかりと理解でき、内面的成長が実感できるような環境の下、仕事を続けていくことが可能であろう。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

先述した通り、この統合報告書では財政面における他社との競合優位性があまり感じられない。営業利益がコロナ禍における需要の減少により赤字になっていることをはっきりと伝えていることは財政の透明性が高いとも言えるが、環境問題への対応策があまりにも多いため、これからの収益回復のための具体的行動が少なく、どうしても不十分に感じてしまう。これらを踏まえると、統合報告書における環境問題に関する陳述と財政に関する陳述を1:1の割合で行なっていく方がより投資家が投資したくなるようなアピールを行えるのではないだろうか。